



2023（令和5）年度

二中だより



第33号

2023（令和5）年12月6日 発行責任者 加賀谷 登

一年の計は今からでも間に合う

12月1日（金）全校集会の校長講話より

今日から12月ですね。今年も残すところあと1か月となりました。

12月は、和風月名では「師走」といいます。師走の由来は諸説たくさんありますが、一般的に言われているのは、12月になると師匠である僧侶がお経をあげるために東西を駆け回る・・・師馳せるが師走る、師走となったと言われています。他の月の和風月名の由来も多種ありますので、興味のある人はぜひ調べてみてください。

さて、今日は「一年の計は、今からでも間に合う」という話をします。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。聞いたことがある人も多いと思います。お正月の朝、「今年こそはこれをやってみせる」「これを続けるぞ」みたいな目標を立てた人も多かったのではないのでしょうか。宿題で出たかもしれませぬね。

どうでしょうか。今年の正月に立てた目標を続けて頑張っている人はいますか。頑張っている人もいるだろうし、反省しきりの人もいるでしょうね。しかし、いずれにせよ、今年はまだあと1か月で終わります。令和6年の1月1日には新しい目標を立てるのです。

さて、そんな皆さんにあえて言います。

「一年の計を今から始めましょう。」

「えっ」と思った人も、「あと1か月ですよ」と思った人もいるでしょう。

それでもいいのです。

目標を立てて、ずっと継続することができるということはすばらしいことです。しかし、ほとんどの人は、目標を立てて実行して、失敗して、挫折して、あるいは途中で忘れてしまったり、あきらめたりしてしまうことの方が多いのです。大切なのは、失敗したり、忘れていたりしても、そこからまたやってみることです。

今年は、あと1か月で終わるけれども、令和5年度で考えてみるとあと4か月もあるのです。4か月ということは1年の3分の1です。まだそれだけ残っているのです。今年の正月に立てた目標を今からやってみるのもいいし、目標を下げてやってみるのもいいです。まったく新しい目標を立ててやり直してみるのでもかまいません。今からもう一度やり直してみよう。

特に3年生の皆さん。泣いても笑っても間もなく卒業です。実質、二中学生でいるのはあと3か月です。部活動は終わってしまったので取りもどすことはできませんが、勉強や思いでづくりはまだ間に合います。将来の自分のために自分自身を磨くことは、それこそ十分な時間があります。

小さなことでもいいので、今から始めてみましょう。

リサイクル用品回収お世話になりました！

12月3日（日）に実施したリサイクル用品回収、大変お世話になりました。子どもたちもそれぞれの場所で一生懸命頑張ってくれました。リサイクル用品回収の利益につきましては、子どもたちの教育活動充実のために、有効に活用させていただきます。



キャリア教育講演会 11月29日(水)
「夢に向かって～私が海から学んだこと～」
武知 実波 さん

11月29日(水)にキャリア教育講演会を行いました。本校の卒業生でもある武知実波さんを講師としてお迎えしました。武知さんは、日本サーフィン連盟理事、徳島県サーフィン連盟事務局長として、サーフィンの魅力を伝える活動をしています。徳島県出身として初めての女性プロとしてご活躍されていました。徳島県のふるさと大使もされています。以下箇条書きでご紹介します。



【小中学校時代】

- ・小学校6年生から本格的にサーフィンを行う。
- ・サーフィン以外の運動は、陸上系も球技系もまったくといっていいほどできない。よく誤解された。
- ・転機は中学校2年生。18歳以下の日本代表として推薦される。

迷った。おばあちゃんに相談・・・「人生の糧になるから、絶対にした方がいいよ。」

自分だけで迷わず、誰かに相談してほしい。

日本代表として活動して・・・いろいろな人たちと出会えたことが、かけがえのない財産になった。言葉が違う人たちとの出会いが、文化や考え方の違いを知ることができた。

【高校・大学時代】

- ・高1でエクアドルに行った時、小学生の子どもが両親と一緒に働いていた。学校に行くことが当たり前と思っていたけれど、それが当たり前でない。
- ・何かしなければならなかった。「将来のため英語をしっかりと勉強したい。教育に関わる仕事をしたい。」
- ・高3でプロを目指す。進路について迷いが・・・サーフィンもしたい。英語や教育に関わる仕事もしたい。両方できるところへ進学(徳島大学へ)。
- ・徳大を選んだのは、「今できることは今しなければならない。」という思いから。
- ・どちらかの成績が下がったら、どちらかの所為にされる。それは絶対に嫌。必死になってがんばった。
- ・大学時代、県内出身者が県外出身者に言ったこと。「徳島、何も無いよ。」徳島の良さを知ってもらう活動もしたい。
- ・夢を追いかけることは、いいことばかりではない。大けがをして入院した。つらいリハビリ。「必ず治る」という医者言葉を信じて、つらいリハビリに耐えた。サーフィンできることが当たり前じゃないということを実感した。



【プロ～現在】

- ・バヌアツ共和国。73の島からなっている島嶼国。バヌアツ共和国の子どもたちに、サーフボードを100送る活動。中古ボードを活用する。サーフィンを通してふるさととのいいところを知ってもらう。バヌアツ共和国の人々は環境意識が高い。使い捨てプラスチック禁止。
- ・一度やってみることで、新しい知識や学びが得られる。
- ・オリンピックを通して、支えてくれる人たちがたくさんいることを実感した。
- ・今も夢を追いかけている。アスリートのセカンドキャリアを応援する団体の世話をしている。
- ・サーフィンを通して、環境問題が身近になった。海水温は高くなっていることに気づいた。地球温暖化も伝えて言っている。



最後に、「一度来た波は二度とこない。」今の生活は二度と来ないから、なりたい自分になるためにはどうしたらいいのか、正直に自分と向き合ってください。「目標があって、考える、挑戦することが大切」と話を締めくくられました。

武知さんのお話しは非常に考えさせられることが多かったです。一人で悩まずに相談すること。私たちの当たり前がすべての人たちの当たり前ではないこと。多様性を理解すること。夢を大切にすること。今を一生懸命に生きること(大切にすること)。言い訳をしないこと。環境問題。多くの人に支えられていること。これらのお話から何か一つでも学んで、これからの生活に生かしてほしいと思います。